



江戸城から版

NPO 法人 江戸城天守を再建する会

こんてんつ

来年こそ確かな歩みを!.....1
三浦教授寄稿②「江戸城 2」...2
会員拡大の取組、江戸ウイーク...3
黒田涼江戸城ガイド③他 ...4
お城 EXPO・J-CULTURE FEST...5
会員のひろば6
新規入会者・寄付者紹介.....7
イベント報告・その他8

平成 29 年 12 月 7 日 第 46 号



『来年こそ確かな歩みを!』

理事長 島田昌幸

月日の経つのは早いもので、当会が設立されてから既に 14 年の年月となりました。この間、会の名称も「江戸城天守再建を目指す会」から、「江戸城天守を再建する会」へと、「やりたい」から「やる」会へ強い意志を表したものに変わりました。運動の輪は確かに広がってききましたが、実現に向けた歩みはまだ遅々としたものに過ぎないことを率直に認める必要があります。

何故そうってしまったのか。最大の要因は東御苑という皇室のお庭であることに加え、それ自体が文化財である天守台の上に天守閣を再建させて頂くという事業の特殊性、難しさに真正面から向き合っただけでこなかった運動自体にあったと思います。どうしたら皇室の資産をお借りして事業を進められるのか。課題をひとつずつ取り上げて、克服すべき具体的な計画を作って運動を進めていくことがまず必要です。2 年後には新しい天皇陛下が即位され、年号も改まります。新しい世紀への祝賀のプロジェクトでもあることを、関係者の皆さんに理解していただく努力が欠かせません。

組織運営体制の構築も課題です。計画準備段階での調査・研究や全体構想の作成にあたる一方、事業資金の調達も担う事業主体をまず組成する。皇室の資産をお借りすることを前提とした事業ですので、優れて公益性、公共性を持った組織でなければならず、この事業主体が建設、運営の母体となります。実際に施設の建設、管理、運営に当たるのは、この母体から委託を受けた実施事業体です。NPO 法人は引き続き草の根で事業を支援しますので、全体は三位一体の構図です。

ここで大事なのは、NPO 運動がどこかに引き継がれて解消してしまうことはないという点です。むしろ、建設場所の特殊性を考えると世論の支持を得ることがますます重要になります。賛同署名が 50 万人を超え 100 万人を達成できるようになれば、運動は質的に大きく変化して、推進力を増します。来年 3 月の総会には、天守再建に向けた戦略を中期計画としてまとめ、ロードマップを改めて提案したいと思います。

ここで、今年初めに登記された一般財団法人（ルネッサンス）との関係について申し上げておきたいと思います。今年 3 月の総会でお話しした通り、これまでは「車の両輪」との考え方でお互いに協力しあって天守再建の目標に向けた運動を進めていくことにしていましたが、残念ながら今までのところ話し合いの場すらできていない状況が続いています。目標達成への時間的制約もありますので、まずは私たち NPO として天守再建への道筋をしっかりと作って、運動を進めたいと思うに至りました。会員の皆さんと賛同署名をいただいた約 4 万人の方々への責任からも、時間の無駄使いはできないと考えました。



3 年後のオリンピック・パラリンピックとその先を見つめて、東京の文化発信力をもっと高めていくことが求められています。その拠点として江戸—東京と続く歴史の歩みを知り、体感できる空間を整備することが大きな足掛かりになるのではないのでしょうか。

皇室の文化と日本の心を、日本人自身が学び、訪れる多くの海外の人たちにも知ってもらえる場、そのシンボルとしての江戸城天守の再建。そして、それが新しい天皇の世紀のモニュメントとなるような運動に高められたら嬉しいことです。

会員のみなさん、NPO 法人は会員全員が運営に参加する開かれた組織です。次の 1 年を、我々の夢実現のための確かな年とするために、どうかいろいろなご意見をお寄せください。お待ちしております。

100 万人賛同署名運動推進中!

38,955 筆 (11 月 27 日現在)



特別寄稿 『歴史に残る名城の天守』

<第2回：江戸城天守 その2>

広島大学大学院教授 三浦正幸
(当会特別顧問)

安土城天主の正統な継承

織田信長が天正7年(1579)に完成させた安土城天主(天守の古名)は、外観五重、内部は地上六階、地下一階であった。史上初の五重天守であって、それ以降、五重が天守の最高重数となった。例外は徳川家康の駿府城天守(静岡市)の六重七階だけだったが、これは巨大な天守台(現在、発掘調査中、見学可能)の中央に建ち、その周囲の余地に多門櫓を建て回して囲んでいたのが、特殊例だった。なお、内部の階数は、旧式天守では途中に屋根裏階ができてしまうので、屋根の重数より多くなる。今日のビルディングとは違って、階数が多い方が高いということはなく、五階建てだった江戸城天守は、六階建ての安土城や姫路城、七階建ての駿府城や会津若松城天守(創建時、ただし地下階を含む可能性が高い)よりもはるかに高かった。

五重天守は、豊臣家(大坂城・伏見城・肥前名護屋城)や徳川家(名古屋城・二条城・再築大坂城)のような天下人の城以外では、概ね50万石以上、あるいは中納言ちゅうなごん以上の大身の大名にしか許されていなかったようで、豊臣政権下では広島城・岡山城・会津若松城、徳川政権下では熊本城・萩城・姫路城などしかなかった。島原城(現在の天守は誤った復元)・津山城(岡山県)・福山城(広島県)などでは五重屋根のうちの一つを板葺きにして、それを重数に算入されないようにし、小倉城・佐賀城では、五階を出っ張らせて四重目の屋根をなくした唐造からづくり(南蛮造)の新技法を用い、実質五重であっても建前上は四重天守にしていた。

江戸城天守は、柱間を7尺(約2.13m、現在の1尺よりやや長い)とする信長・秀吉といった天下人だけに許された寸法を用い、高い天守台石垣上に崇高な五重の外観を聳えさせ、天守台内には穴蔵あなぐら(地下階)を設けていた。穴蔵には太い木造どだいの土台を敷き並べ、五重天守の中央部の大重量は総て穴蔵の土台が受けていた。土台によって大重量を穴蔵の地下地盤に分散させて、荷重が特定の礎石に集中して不同沈下するのを防止している。穴蔵の周囲には2間幅の石塁(堤防状の石垣、現在の江戸城天守台では、穴蔵を土砂で埋められている)を設け、天守の一階の入り側いりがわ(武者走り)の小さな重量だけを石垣に掛けていた。以上のような江戸城天守の特色は、安土城天主の構造を正統に継承したものであって、戦災焼失した名古屋城天守も同様だった。石垣は少しだけ重さを掛けた方が圧倒的に強くなる。熊本城の再建櫓では隅石だけに櫓の重さが掛かっており、中央部は石垣に重さを掛けてはならないという間違っただけの指導によって浮かせてあったので、熊本地震では隅石だけが残って中央部は崩れ落ちてしまった。江戸城では、早く木造天守を再建して、その一階分の重さで天守台石垣を少しだけ押さえ、大地震で崩れないように備えた方がよい。(次号へつづく)



江戸城寛永度天守復元正面図
(経年変化後)



安土城跡遠望(滋賀県)



安土城天主(イメージ)

◆千代田区立内幸町ホールで『第5回江戸城寄席』を開催！

10/3 夕刻より、千代田区立内幸町ホールにおいて恒例の江戸城寄席を開催しました。今回で5年目になるこのイベントは、当 NPO 法人江戸城天守を再建する会が主催するもので、地元千代田区民などを対象に開催している人気の寄席です。今回もチケットはほとんど売切れ、会場もほぼ満員状況でした。ご来賓として参議院議員松澤成文先生をお招きし、ご自身の江戸城に関する政治活動や想いなどたいへんホットなお話をご披露いただきました。出演は、いつもの金原亭伯楽師匠と一龍齋貞花先生、ほか太神楽の翁家と助、落語の春風亭一蔵、同金原亭乃々香の各氏。

この公演は、千代田区・東商千代田支部・千代田区観光協会・同商工業連合会・同文化芸術協会の後援で実施。



◆【江戸城散策ガイド】シリーズ(第2回)報告

＜第2回江戸城外堀の概要と歴史について＞

11/11(土)午前、千代田かがやきプラザでの当会会員・江戸歩き案内人・作家の黒田涼氏の座学「江戸城外堀の概要、歴史」に続き、午後飯田橋集合にて実践編「江戸城外堀のお散歩」を黒田氏のガイドで実施。十余名が参加、都心の紅葉を楽しみながら牛込門跡より田安門～北の丸～清水門～北詰橋門～東御苑内を見学後、15時30分平川門で解散。江戸城外堀のことが実地によくわかりました。



◆寄付の耳より情報:「日本の絆基金」寄付

7月から「日本の絆基金」を利用して当 NPO 法人へ1万円以上ご寄付いただいた場合には、税制上の優遇措置が受けられます。翌年の確定申告で約4割が戻ります。詳細は当会ホームページの「寄付」の欄をご覧ください。

■今後の行事予定 (ボランティアのご協力をお願いします)

12/22(金)～24(日) 第2回お城 EXPO(パシフィコ横浜)
1/2(火)～6(土) 東京国際フォーラム J-CULTURE
FEST2018 協賛、当会「新春お城びより」同時開催
2/24(土) 黒田涼第3回「江戸城散策ガイド座学&散歩」
3/7(水) 2018年通常総会(予定)

◆第6回カレーグランプリに出展、署名活動を行う

毎回千代田区商工連様のお蔭により、千代田区で人気のイベント「第6回カレーグランプリ」に今年も11/4-5の2日間出展でき、ご来場のカレー好きのお客様に大いに「江戸城再建活動」がアピールできました。またたくさんの賛同署名のご協力もいただきました。ありがとうございました。



◆「世論喚起」活動/大手門前でチラシ配り

— 毎週土曜日活动、ボランティア募集中 —

昨年の入苑者数が実に145万人にもなるという、東京の隠れた名所「皇居東御苑」(江戸城本丸跡)は、全国からそして世界中から日本の歴史や江戸城に関心の深い方々が、やってきます。私たちは原則毎週土曜日の午前中、ここ大手門の入口で世論喚起のためのチラシを手渡しで配っています。英語バージョンのチラシも配っていますが、最近是中国語版の必要性も感じます。



◆会員のみなさまへ【お知らせとお願い】

① 会員規約変更のお知らせ (→別紙参照)

正会員について、翌年の通常総会参加資格の規約を変更しました。詳しくは添付の別紙をご参照下さい。

② 会費や寄付金の決済がクレジットカードでできます

9月からカード決済が可能になりました。当会ホームページの、<http://npo-edojo.org/> からどうぞ。

③ 住所等変更届けのお願い

住所・電話番号などが変更になりましたら、FAXや電話で早めに事務局までお知らせ下さい。

④ Eメールアドレスの登録のお願い

Eメールアドレスをお持ちの方は事務局宛にメールをお送り下さい。イベント等の情報をお送りします。

編集後記

会員の皆様とのコミュニケーションを図るために、「江戸城かわら版」を年4回発行しました。会員の声や当会の活動状況をお伝えし、会員の皆様に「読まれる」かわら版づくりに努めました。今回は、理事会で審議し、会員の皆さんの声や、外部から見た視点を汲みとりながら決めた当会の基本姿勢を理事長名でお伝えします。皆様のご理解を頂き、会員の皆様と一体となった活動ができることを願っています。(初鹿)



NPO法人 江戸城天守を再建する会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-32
前川ビル 3階

◇電話 03-6423-1882 ◇FAX: 03-6423-1897

◇メール info@npo-edojo.org

◇ホームページ <http://npo-edojo.org>

◇Facebook <http://www.facebook.com/npoedojo>



株式会社
小林工芸社

執行役員
大滝英雄



お城 EXPO 2017 概要

- 日時：2017年12月22日(金)～24日(日) 10:00～18:00 (12/22は13:00～21:00、12/24は17:00閉場)
- 会場：(横浜)パシフィコ横浜 会議センター
- 来場人数：約20,000人/3日間合計(昨年実績)
- 主催：お城 EXPO 実行委員会〔(公財)日本城郭協会/(株)ムラヤマ/(株)東北新社/パシフィコ横浜〕
- 後援：経済産業省/観光庁/神奈川県/横浜市/日本政府観光局/朝日新聞/読売新聞/神奈川新聞/tvk/他
- 当会：メイン会場へブースを出展します。是非お越しください。

昨年第1回目として開催された「お城 EXPO」は、「お城巡り・城郭巡り」のファンの皆様と、城郭を持つ地域団体との交流で人気を博し、約2万人の来場者がありました。第2回目の今年は、日本100名城のほか続日本100名城を追加した写真展や、模型や城郭などお城にまつわる貴重な資料の展示、スペシャリストの講演などを充実させ、ますますお城ファンに喜ばれる企画となっております。

今年の当会のブースのハイライトは、寛永度の江戸城天守のあった東御苑の、「1600年代の当時と今の風景」を来場者のスマホでつぶさに比較して見るコーナーを設けました。東御苑の展示パネルのマークにスマホの赤外線で焦点を合わせると、「寛永度の時代と今日の風景」の比較をスマホの画面で楽しんでいただける仕掛けになっています。今回は、

このCG写真の資料提供を名古屋支部長の成瀬京司氏、この仕掛けのソフトウェアの提供をボランティアの近藤一郎氏、そして当会ブース全体の運営は神奈川支部長の望月重公氏が担当され、NPOらしく会員の皆様のご尽力と手造りで出展することができました。今年のクリスマスは、多くの会員の皆様がお立ち寄りいただきますよう、横浜でお待ちしております。別紙「お城 EXPO2017 出展」もご覧下さい。(写真は昨年のもので)



お正月は東京国際フォーラム「J-CULTURE FEST 2018」に協賛、 当会『新春お城びより』を同時開催します！

チェコ観光協会のご協力と会員有志の獅子舞等のアトラクション



- ◆期間 2018年1月2日(火)～6日(土)
- ◆場所 (有楽町)東京国際フォーラム
- ◆主催 東京国際フォーラム、当会協賛

昨年は、東京国際フォーラム20周年記念行事として、ニッポンのお正月に、日本文化の「伝統と革新」を国内外に発信するコンセプトで開催され、約6万人の来場者がありました。当会も「日本の体幹としてのお城」のテーマで、お城ギャラリー模型13城や、太田道灌と江戸城ヒストリー、四つの講演会、伊勢原甲冑隊など大いにこのイベントを盛り上げました。

今年の当会は「新春お城びより」第2弾として、会場1階の太田道灌公像と寛永度天守模型のあるコーナーでブースを開きます。

日本の城「江戸城寛永度天守」→ヨーロッパの城「チェコの城」→「江戸城天守再建の今日的意義」をパネルで展示。チェコ観光協会のご協力を得て、チェコのお城を題材に比較しながら、文化の違いからくるお城の特色、意義、未来に語り継ぐお城の魅力などを、幅広い視点でとらえた物語として展示します。

講演会も当会太田資暁会長、特別顧問の三浦正幸広島大学大学院教授、特別顧問の松平定知氏等の講演を行う予定で、様々な分野での研究されている方や、知見の広い方々との交流を楽しんでいただきます。

更に、今回はお正月の2日、3日の午後、千葉支部長江澤廣氏のご厚意により、自ら気天流獅子舞をご披露いただきます。新春を迎えるにふさわしい獅子舞はJ-CULTURE FESTのテーマである「にっぽん・和心・初詣」に相応しいものとして大いに喜んでいただけるものと期待できます。

会員のみならず、初詣でがてら新春をご家族・ご友人とともに是非ご来場下さい。お待ちしております。詳細は、別添のチラシをご覧ください。(当会ブースでの活動ボランティアを募集中)(写真は前回のもの)





黒田涼の「江戸城散策ガイド」シリーズ

第3回

<飯田橋から赤坂見附まで>

江戸城散策コースをご紹介します。広大な江戸城全域はととてもとても1日では回りきれません。半日コースを基本にどなたでも歩けるコースにしますので、ぜひみなさん、これを参考にお出かけください。江戸城散策コース第3回は、「飯田橋から赤坂見附まで」です。



◆江戸城散策第3回は、江戸城外堀が一番よく残る部分を歩きます。スタートは前回と同じ飯田橋駅ですが、今回は東口を出ます。駅前の五叉路を外堀通り沿いに行くと、左側に江戸城外堀の飯田堀を埋めて建てられた高層ビルがあります。江戸時代には海からここまで船が上がりました。

◆早稲田通りと交差する左の坂が牛込門に入る土橋です。交差点手前駐車場入口に大きな江戸城外堀の石垣が使われており、飯田堀の案内板があります。土橋の手前側の法面には、江戸期の石垣が残っています。牛込門については前回詳しく書きましたので改めて書きません。門跡まで登り、交差点を今回は右に、市ヶ谷方面に進みます。右側は外濠公園で今も外堀土塁が残ります。春は桜の名所ですが、工事の壮大さがわかる場所です。

◆途中の新見附橋は明治期の建設。ここを下って江戸城外に出て左の市ヶ谷方面へ。堀越しの江戸城内の高さを実感して下さい。市ヶ谷駅へ登る靖国通りは江戸時代初期建設の土橋。左側の斜面に400年近前の法面石垣がずらりと残ります。



登って駅の側から右へ入ってしばらくすると再び外堀土塁上の公園です。右側の総武線・中央線が走る側の斜面はほぼ江戸期のまま。

◆しばらく行くと四谷駅で、駅前広場手前に四谷見附門石垣が残り、ロータリー内に解説版と枳形門範囲を示した舗装があります。甲州街道を渡り上智大の側へ。この部分の外堀土塁はほぼ江戸期のままの高さで5メートルはあるでしょうか。下の真田堀は今はグラウンドですが、かつては水をたたえ、江戸城外堀でも最大規模の土木工事で作られました。



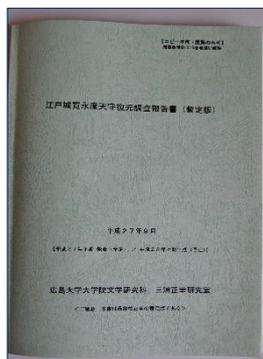
◆喰違見附跡から紀尾井坂を下り、清水谷へ入ると江戸期にはなかった弁慶橋があります。左奥には赤坂見附門脇の壮大な石垣が見えます。東京ガーデンテラス側の斜面に遊歩道ができ、この石垣を間近に見ることができます。そしてその裏側の青山通り沿いに赤坂見附門石垣が残ります。

●【ご案内】座学・散策とも 2月24日(土)を予定しています。→詳しくは別添のチラシをご覧ください。



「寛永度江戸城天守 復元調査研究報告書」を読む<2>

理事 土屋 繁



寛永度江戸城天守は各階の階高が著しく大きく、地階、一階については、名古屋城天守や姫路城大天守のほぼ2倍。また寛永度江戸城天守は、総高が名古屋城天守と比べて29尺も高い(寛永度江戸城天守の一階分の階高に相当する)。また姫路城大天守の総高は、寛永度江戸城天守の2/3程度、宇和島城天守にいたっては1/3程度しかない。また名古屋城天守の延床面積は寛永度江戸城天守より広がった。それでも寛永度江戸城天守の延床面積は姫路城大天守の2倍近く、宇和島城天守の15倍以上もあって、きわめて広大な平面を有していた。寛永度江戸城天守と名古屋城天守とでは、延床面積こそ名古屋城の方が広いものの、総高及び各階の階高については、寛永度江戸城天守が圧倒的に大きく、そのため両者の体積には大きな開きが生じる。さらに現存最大の姫路城大天守に対しては床面積・高さ・体積のすべての点で圧倒しており、宇和島城天守に至っては、寛永度江戸城天守の最上重の容積に等しい。

このように寛永度江戸城天守は群を抜いて、史上最大の天守

であって、日本建築史上でも東大寺や方広寺の大仏殿に次ぐ巨大建築であった。

■各天守台上の総高(単位:尺 天守台上端から大棟上端)

寛永度天守 148.0 名古屋城天守 119.0 姫路城大天守 103.9

■各天守の床面積(単位:坪)

寛永度天守 1252.9 名古屋城天守 1340.7 姫路城大天守 712.0 宇和島城天守 85.0

※「寛永度江戸城天守 復元調査研究報告書」は三浦正幸・広島大学大学院教授が作成する。



会員強化と支部組織拡大のお願い

世論喚起を大命題としての、江戸城寛永度天守再建運動を司る NPO 法人は、「会員」のみならずのお力添えなくして目的を貫徹することはできません。再建に賛同し、共に再建活動をする仲間を増やすこと(会員拡大)、再建賛同署名を全国にわたって獲得すること(100 万人賛同署名)、この二つの相乗効果で天守再建の道は明るくなって参ります。そのための一つとして、各地に「支部」の拡大を強力に展開致したく、みなさまの参画を是非お願いいたします。本年 9 月 1 日現在、6 支部が設立され活動しています。(事務局あてにご連絡いただければ、折り返しお電話をさせていただきます)

当会 NPO が
初参加で後援

東京江戸ウイーク 2017

上野の杜で盛大に開催されました

当 NPO 法人「江戸城天守を再建する会」は、第 2 回目となる文化イベント「東京江戸ウイーク 2017」を後援し、成功裏に終了することができました。10 月 5 日から 9 日にかけて、会場を上野恩賜公園として「東京江戸ウイーク 2017」は、多くの外国人の方々を含め実に 21 万人を超す来場者の下、賑やかに開催されました。

このイベントを後援した「江戸城天守を再建する会」は、当会のメインブースと、国宝のお城を中心にした 5 個の模型を展示する 2 つのブースで参画し、多くの来場者の人気を得ました。江戸時代の伝統・歴史・文化の代表格であるお城の模型、「の」字型に開拓発展した江戸の町づくりの変遷のパネル、そして寛永度天守の雄姿を写真・CG で展示し、日本の伝統文化のシンボルとして江戸城天守の復元を目指す当会の活動の PR は、まさしく江戸文化の魅力を色濃く発信しました。



このことは、当会が参加することにより、「東京江戸ウイーク 2017」が、物や、お酒、食べ物の販売や着物ショー等のイベント中心のお祭りだけではなく、江戸の文化的価値をアピールする一味違った魅力を提供することになりました。そして 100 万人署名運動を展開している「江戸城天守再建」の賛同署名数は、この期間合計で 1, 611 名を数えました。

また当会は、二つのアトラクションを提供し、このイベントの魅力をさらに盛り上げました。一つは、江戸時代の花である「獅子舞」と「かっぽれ」の華やかな群舞を、舞台で提供し大いに観衆を魅了しました。そして二つ目は、寛永寺を中心にした上野の江戸時代の史跡巡りウォークを実施し、歴史的由来や

エピソードを交え作家で江戸歩き案内人の黒田涼氏がガイドし、まさしく歴史探訪を楽しんでいただきました。寛永寺等の江戸時代の名残を多数残す上野恩賜公園と、江戸時代の伝統文化をアピールする「東京江戸ウイーク 2017」が非常に相性よくマッチし、成功裏に展開できたことは「江戸城天守を再建する会」の貢献が大きかったものと確信しております。

このように、第 2 回の「東京江戸ウイーク 2017」は大成功に幕を閉じましたが、今後 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックへ向け、日本の文化・江戸の文化を国内・海外に発信する貴重なイベントとして、ますますその存在価値を高めてゆくことと思います。当会も協働して深くこのイベントに関わってゆくことで、上野の杜から江戸城天守再建運動を、全世界へアピールして参ります。会員のみならずの絶大なご支援・ご協力をお願いします。

